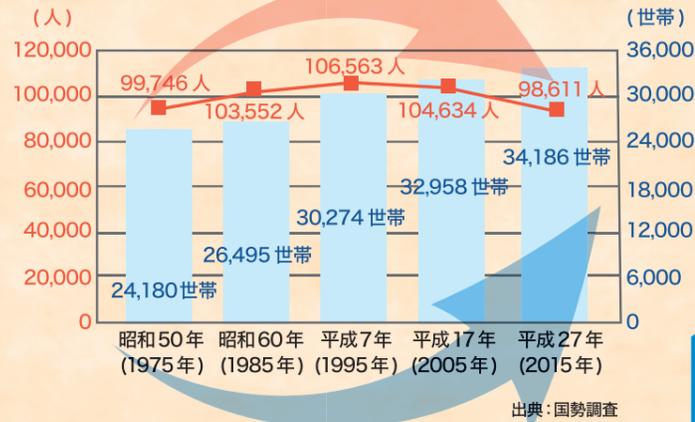


新発田市の人口及び世帯数の推移

人口減



世帯数増

新発田市の一世帯当たりの人数

昭和35年 (1960年)

平成27年 (2015年)



出典：国勢調査

人口減少や少子高齢化、核家族の増加によって…

出かけるための交通手段に困っている

伝統文化を守るのが難しくなった

子どもの見守りが心配

若い人が少なくなったね

困ったときに助けてほしい

一人暮らしの高齢者が多いよね

防災ってみんなの協力が必要だよ

地域づくりが必要

地域づくりがなぜ必要なの？

当市の現状を見ると、人口が減少していることに加え、世帯数の増加に伴い、1世帯あたりの人数が減少しています。また、全世帯に占める高齢者の一人暮らし世帯の割合も、平成27年の国勢調査では9.7%という結果が出ています。少子高齢化・核家族化の影響や、地域に関わる意識が薄れてきているなどの社会状況の変化により、個人や各家庭だけでは対応しきれない課題が多くなっています。



皆さんは、自分が住む地域の良いところについて考えたり、困りごとがあるから、こんな地域になったらいいなと思ったらすることはありますか。

地域の魅力を高めたり、課題を解決したりするためには、そうした思いを共有する住民同士のつながりが必要になります。

今回の特集では、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう、地域づくりの大切さについて考えます。



地域づくり

「特集」みんなですすめよう

■問合せ先：市民まちづくり支援課市民まちづくり支援係（☎28-9640）

防災

安心・安全のまちを目指す活動 自主防災組織と地域連携防災訓練

五十公野地区



五十公野地区区長会
会長 高樫康雄さん

いざという時のために ふだんからコミュニケーションを図ることが重要

五十公野地区では、幸いにも過去に災害の被害を受けたことがなかったため、地域の防災意識が高くありませんでした。自主防災組織率は、3年前は2割で、今は7割まで向上しましたが、まだ市内では低い方です。防災のためには、自主防災組織を結成して終わりではなく、避難訓練を実施するなど、日頃から備えておかなければなりません。

最近、日本の各地で発生している災害が多いことから、地域の防災意識を高めるため、10月21日に大規模な避難訓練を行い、221人が参加しました。災害による被害を最小限に抑える

ためには、地域のつながりが何よりも重要です。五十公野地区ではふだんからコミュニケーションを図るため、町内行事を積極的に行って、地域のつながりを深めています。また、もしものときには避難所を運営しなければならないため、災害弱者や女性の方にも五十公野地区の自主防災組織に参加してもらい、防災活動を行っていきたいと思います。



伝統継承

伝統文化を守り次世代に継承する活動 獅子舞の保存を通じた町内会活動

東町町内会



東町町内会
会長 長谷川 進さん

約260年の歴史がある「東町獅子舞」 伝統を守り、未来に引き継いでいきたい



東町町内会には、約260年の歴史がある「東町獅子舞」があります。毎年、中秋の名月の直近の土曜日に「十五夜祭」を、2月15日に「新年祭」を行って、町内の神社に獅子舞を奉納しています。

町内の子どもたちに獅子舞を教えるのは、「獅子舞保存会」の会員である大人たちです。子どものときから獅子舞を習うことで、先輩方がこれまで築いてきた伝統文化を守る意識が芽生え、自分の住む地域に誇りを持つことができます。

東町町内会では、「地域の宝」である獅子舞によって、地域全体のつながりが強くなり、町内会の活動が盛り上がっています。後継者も育っており、獅子舞の伝承を通じて「地域の子どもは地域で育てる」という意識づくりにもつながっています。

助け合い

困ったときに助け合う活動 おたがいさま講座

こうねん
下荒町幸年会



下荒町幸年会
会長 渡邊克人さん

地域で助け合いや支え合いを行うために 自分ができることから始めたい

私たちは地域の助け合いや支え合いについて考えたいと思っていました。市の「おたがいさま講座」があることを知り、講座を開催しました。お互いのことが分からなければ、困ったときに「助けて」とは言えません。地域の皆さんとの信頼関係があり、「困ったときにはおたがいさま」という気持ちがあれば、誰でも暮らしやすい地域になると思います。

お互いに助け合い、支え合うことは、言葉で言うのは簡単ですが、実際にやるのは難しいと思います。これからは、私も助けてもら

うことが多くなると思うので、今はできる限り、自分ができることで他の人を手伝ってあげたいと思います。



■おたがいさま講座に関する問合せ先＝高齢福祉課地域ケア推進係（☎28-9200）

見守り

子どもの安全を守り成長を見守る活動 れんぎょうパトロール隊

紫雲寺地区



米子1班
班長 鈴木光子さん

子どもたちから元気ももらい、成長を見守ることができる、やりがいのある活動

れんぎょうパトロール隊は、「子どもたちの笑顔があふれる地域づくり」を目指して、平成18年に結成されました。現在会員は85人で、主な活動は小・中学生の登下校時の見守りです。

私も月曜日から金曜日までの毎朝、れんぎょうパトロール隊のベストと帽子を身に付けて交差点に立ち、子どもたちの見守り活動を行っています。私たちが街頭に立つことで、子どもの安全を守り、犯罪を防ぐ抑止力になっていると思います。また、挨拶を交わすことで子どもたちから元気ももらえ、成長を見守ることもできます。子どもたちから感謝されることも多く、とてもやりがいがあります。



見守り活動を通じて、子どもたちだけでなく、保護者の皆さんや地域の方々とも顔見知りになり、地域の人と人のつながりが深まりました。これからも子どもを地域で見守り、地域全体で育てていきたいと思っています。

地域づくり

地域の人と人を つなぐ活動

市内には、地域の課題を自分たちで解決するため、お互いに協力し合いながら、より良い地域づくりに向けて活動している方々があります。その活動は地域の人と人をつなぐ効果をもたらしています。市内で行われている活動を紹介します。

交通手段

地域で公共交通の確保に取り組む活動 デマンド（予約型）乗合タクシー「まつうら号」

松浦地区



松浦地区公共交通協議会
会長 齋藤啓一さん

地域のつながりを深める「まつうら号」 誰にとっても利用しやすい公共交通に

東小学校の統合や路線バスの使いにくさをきっかけに、松浦地区区長会が中心となって地域の公共交通のあり方について検討を重ね、今年4月から「まつうら号」の運行をしています。「まつうら号」の運営は、地域住民で組織する松浦地区公共交通協議会で行い、運行は新発田ハイヤー協会が行っています。

通院で利用する方が多く、利用者からは「便利になった」と感謝されています。「せっかく乗合タクシーができたのだから乗ってみよう」と言って、久しぶりに集まった地区の方々がいっしょに出かけたという話も聞いています。「まつうら号」が地域の人と人のつながりを深める役割も果たしています。これからも、利用しやすい公共交通にしていきたいと思っています。

「まつうら号」は松浦地区の方だけでなく、どなたでも利用することができますので、ぜひ予約して乗ってみてください。

■「まつうら号」の予約先＝松浦地区公共交通予約センター（松浦農村環境改善センター内、☎26-3392、祝日を除く月～金曜日の8:30～17:00。前日までに予約が必要）



受付業務を担当する
(上)池田 仁さん
(左)伊藤達男さん



地域づくり支援センターの4つの機能



①相談窓口

自治会、NPO、ボランティア団体、学校、企業など、多くのひととのネットワークを使って、他団体との連携や人材の紹介など、皆さんの悩みをいっしょに解決します。

②広報PR

会報誌やインターネットなどを使って、団体の情報やイベント情報、地域の魅力など、地域の活動を紹介します。

③資金調達支援

皆さんの活動状況に合わせて、資金調達の方法を検討します。適する助成金があればお知らせして、申請書作成のお手伝いをします。

④各種講座の開催

情報発信、チラシづくり、会計のスキルアップなど、地域づくりに役立つ講座を開催します。開催する講座のリクエストも受け付けています。

地域づくりで困ったら、ご利用ください

地域づくり支援センター

地域づくり支援センターは、皆さんの「困った」をいっしょに考え、課題解決に向けたお手伝いをします。

サテライト	
開館時間	9:00~16:00
休館日	土・日曜日、祝日、年末年始
住所	本町4-16-83 新発田市ボランティアセンター内
電話番号	28-7164
ファックス	28-7182
Eメール	chiikizukuri_ss@ybb.ne.jp
本部	
開館時間	8:30~17:15
休館日	土・日曜日、祝日、年末年始
住所	中央町3-3-3 ヨリネスしばた6階 市民まちづくり支援課内
電話番号	28-9640
ファックス	28-9670
Eメール	machizukuri@city.shibata.lg.jp



赤谷地区(上赤谷)担当
川邊直子さん

地域づくり 地域おこし 協力隊の活動

市内では、地域づくりのパートナーとして、現在9人の地域おこし協力隊員が活動しています。隊員の活動の様子を紹介します。

「赤谷が変わった」と言われるのがうれしい

ふだんは、赤谷で取れた材料を使ったものづくりの教室やパン教室、診療所までのボランティアア送迎、高齢者学級などのほか、猿害に悩む地域のために、わな猟の免許を取得して活動しています。

赤谷は高齢者が多いので、若い世代との間をつなぐお手伝いをしています。今では、赤谷地区の方々から「赤谷の人になったね」「川邊さんが来てくれて良かった」と言われるようになりました。私が暮らしていることで「赤谷が変わった」と言われるのがうれしく、いまだに毎日刺激を受けることが多いです。

また、今回は緑町の方から依頼を受け、赤谷以外でも活動の輪を広げることができています。このような活動が市内全域に広がるよう、お手伝いをしていきたいです。

【観光分野から地域づくりを行う取組】

地域おこし協力隊
観光DMO担当
かづき
佐藤和紀さん



「DMO」とは、官民の連携によって「稼げる観光地づくり」を目指す組織です。私は新発田の魅力を国内外に広めるため、新発田市観光協会の皆さんといっしょに、さまざまなイベントの主催や旅行業、SNSによる情報発信などの業務を担当しています。

現在、月岡温泉には多くの観光客が来ていますが、そこから他の地域には足を運んでいただけではありません。そこで、今後は他の地域おこし協力隊員と協力して、月岡温泉に宿泊した翌日に米倉地区でそば打ち体験してもらうなど、着地型の観光を通して地域づくりにつなげる活動をしていきます。

【関係人口を創出する取組】

「にいがたKnow村の旅」
@新発田市



都会の方たちが首都圏に住みながら新発田と関わりを持ち、新発田を知ってもらうことで、地域の活性化を図るため、10月6・7日に米倉地区・板山地区・月岡温泉などを巡るモニターツアーを行いました。当日は12人が参加しました。

初日は米倉地区で笹団子作りを体験した後、月岡温泉に宿泊。2日目は板山地区で稲刈りを体験した後、参加者と地元の方が地域の特色などについて意見交換を行いました。

参加した方は「新発田のことがよく分かりました。ぜひ、また新発田に来たいです」と話していました。

市の新たな取組

市では、新たな地域づくりの取組として、移住した「定住人口」や観光などで訪れた「交流人口」ではなく、地域の方々とさまざまな形で関わる「関係人口」の創出を目指しています。また、地域おこし協力隊ならではの視点で、観光分野から地域づくりを行う隊員が活動しています。これらの取組について紹介します。

地域づくりフォーラム

これからの新発田の地域づくりを考えるため、事例発表と交流会を行います

とき=12月9日@午後1時30分~3時30分

ところ=地域交流センターあおり館

内容=地域おこし協力隊による活動実践発表、コーディネーターとのディスカッションなど

コーディネーター=中越防災安全推進機構の金子知也さん

その他=事前申し込みが必要です

申込み先・問合せ先=市民まちづくり支援課市民まちづくり支援係 ☎28-9640

地域づくりに参加しましょう

人口減少や少子高齢化が進展するほど、市民の皆さんの力がまちづくりの大きな支えになります。自分で課題を解決しようとする「自助」の考え方も大切ですが、ひとりの力だけでは限界があります。そのようなときには、周囲の人同士で助け合う「互助」や、みんなで支え合う「共助」が力を発揮します。

市民の皆さんが、「地域のことは地域で解決したい」

という思いを共有し、つながりを深めることが、より良い地域づくりにつながります。

市では、地域おこし協力隊の活動や地域づくり支援センターの運営などを通じて、市民の皆さんの地域づくり活動を支援していきます。

より良い地域を目指し、地域づくり活動に参加しませんか。